

中 咲 (人権通信)

発行
令和5年7月20日
徳島市富田中学校
人権教育担当

今月のフォーラム

R5/5/5 朝日新聞「ちやかす対話 恐れる論破」

この記事を読んで・・・

Q. 自分の中に「意見を言うことを嫌がる自分」「反論されることを嫌がる自分」はいるだろうか？また、そんな自分や周りの人に対して、何ができるだろうか？



<1年生の意見より>

・ちやかす言葉ではなく、「それいいね」というリアクションをしたり、お互い信じ合い、話し合いができる雰囲気を作ったりすることが大切である。その理由は、だれかがちやかすと周りの人もちやかすから。私は、みんなと一緒にそうするのではなく、話し合いができる雰囲気を作りたい。

・私は比較的自分の意見をはっきり言ってしまいがちが多いが、反論されることを嫌がる自分もいる。互いの意見を尊重し、伝え合うためには、相手の意見には否定から入らずに、まず肯定する。感情的にならずに話し合うことが大切だと思う。発言にも自信がもてるようになるから。

・反論する前に、なぜ相手がそう思ったかを考えることが大切だと思う。その理由は、なにも考えずに反論ばかりしていたら、新たな発見もなく、自分が成長することができないから。そのために私は、人の意見を取り入れて、考えてから物事を行動に移していきたい。

・自分の周りにも「それってあなたの感想ですよ」とずっと言っている人がいて、その人に何か言ったらまた言われるんだろうと思って何も言わなかった。これからは、周りのなんとなくの空気に流されず、自分の意見をちゃんと言おうと思った。

・私も何度か「それって～」を言われたことがある。相手の神経を逆なでするような言い方をして、本当の使いどころや意見も知らないまま軽々しく人を怒らせる。そんなことは絶対にしない方がいいと実感しました。

・なんとなくで物事を決めないことが大切である。その理由は、もしなんとなく答えてしまうと答えた側は自分の本当の気持ちを伝えることができず、答えられた側も、相手の本当の気持ちが分からず、しっかりコミュニケーションがとれていないからである。そのため私たちは、国語

の授業で学習した「シンジュン」のように、意見や考えが割れても、相手としっかりコミュニケーションをとり、本当の気持ちを伝えれば良いと思う。

<2年生の意見より>

・相手を重んじることが大切である。その理由は、相手の意見を特別に扱うことができるからである。そのために私は、相手の意見を尊重し、どんな意見でも受け止める。

・私は意見を言うことはまあまあできる方だけど、それでも相手の反応を考えて、意見が言いにくいこともこれまで結構あったと思う。それは私だけではなく、いろいろな人が抱えている問題だと思う。なので、誰かが意見を言ったときは、温かい目で見守って、どんどん意見を言いやすい環境を作っていきたい。

・自分の意見を押し通さずに、あくまで一つの意見として、相手に伝えることが大切だと思った。その理由は、みんな考え方は違うので、これだと思ったものを突き通すのは良くないと思ったから。そのためには、思いやりをもって人と接することが心掛けることが大切だと思う。

・「そうなんだ」と意見を認め合うことが大切だと思った。そのためには論破するのではなく、「そうなんだ。私は～かな。」と意見を伝え合うのがすごく大切だと思う。

・相手の話を最後まで聞くことが大切だと思う。その理由は、感想を話の途中で言われると話しづらくなるからだ。そのために私は、感想を言うのを最後にし、話に共感していく。そして、相手が話しやすい環境をつくれるようにする。

・私は反論されることを恐れる自分がある。自分の意見に「でも・・・」と言われることを恐れている。でも、私はみんなの意見が大切なものだと思っているので、否定からではなく肯定してから話すような話し方に気をつけている。

<3年生の意見より>

・様々な観点から物事を見るのが大切である。理由は視野が狭いままでいると、自分の考え中心に物事を考えてしまうようになり、その結果自分以外の意見は正しくないという否定的な思考に陥ってしまうからである。そのために私は、ずっと主観でいるのではなく、さまざまな観点から物事を捉えることに加えて、相手の意見を自分の考えと比較して考えることができるようになる。

・意見を否定しないことが大切だと思う。その理由は、意見を否定されると言い出しづらい環境が作られるからだ。まずは意見を聞いてみるのが大切だと思う。

・違いを楽しもうとすることが大切。自分もつ意見を大切にしながらも、一つの意見だけに縛られないことで、新しいものに出会える。そのために、自分の意見に自信をもって他の意見にも耳を傾けることが大切。

・互いに何でも言い合える関係を築くことが大切である。その理由は、論破することで生まれる少しの優越感を求めて、相手が話そうとしていることを聞かないのは、とても無駄なことであり、親しい間柄であればそれを注意できると考えたからである。そのために私は、まず周りの人に話しかけ、お互いに何でも言い合える関係を少しずつ作っていききたい。

・西村博之氏の言動は確かに人を小ばかにした言い方だが、言っていることについては間違っていない。その博之氏の真似をした若者が、筋が通っていないのに使うのは、相手のことを全く考えていないと思う。また、この新聞記事の書き方はおかしいと思う。博之氏は悪いことをしたわけではないが、この記事を見ると何か悪いことをしたかのように読み取れる。この書き方で博之氏が悪いことをしたと勘違いし、印象が悪くなり、博之氏の生活に影響が出るかもしれない。これも一つの人権問題なのではないかと思った。

・自分の固定観念にとらわれないことが大切である。その理由は、自分の意見が絶対と思わず、いろいろな方面からの意見を取り入れることで、自分の考えが変わることもあるからだ。そのために私は、いろいろな人の意見を心を平らにして聞くようにする。

<保護者・教職員の意見より>

・意見を伝え合うために必要なのは、まずは聞くことである。その際、共感の努力が欠かせない。素直に受け入れた上で、事実と主観を切り分け、相違点を勇気をもって

適切に表現する。一番してはいけないことで、しかも陥りがちなのは、勝ち負けを意識してしまうこと。忖度のない、お互いの思考の幅を広げられるような対話の先には最適解が待っている。

・人間は素晴らしい思考能力をもっている。自分で考えて、人と対話し、また考えて意見を出し合い、今の社会を作りあげてきた。まず話そう。論破されたって構わない。いろんな人がいて、考えがあって、社会はなりたっている。対話から信頼や友情が生まれ、人は成長していく。人と話すことが好きになれば、人生はより豊かなものになるのではないだろうか。

・日本人は「人と違う」ということを異端とみなす傾向にあると思う。皆と同じ意見に安心したり、反対されるのを恐れたり。まず大事なことは、違いを受け入れることだと思う。反対意見をちゃかしたり、攻撃したりせずに耳を傾ける。そうすることで、新しい道が開かれるのではないかと。

・学生時代に活発な意見交換がある中で、成長できているならば、今の自分も空気を読むのではなく、自分の意志、相手の意志を互いに尊重して生活できているのではないかと考えさせられた。それが、社会問題ははじめ、日常に起こっている社会への関心につながるのではないかと。家でも、親だから、子どもだからと決めつけた命令にならないように、お互いに一人の人として意見が言えるように、聞く力を育てるように、話に耳を傾けるようにしたい。

・人の意見や話は最後まで聞き、自分の意見や考えと違っていてもすぐに否定や反論するのではなく、人との違いを受け入れることは大切。私も子どもに、自分の意志をもって、皆と同じじゃなくていいということを伝えていきたい。

・同調圧力という言葉にもあるように、周りがそうだから、理由はなくてもなんとなくそうする風潮がある。正しくないことの方が大勢多数の場合、正論であっても通りにくい。そんなことが起こったとき、その話を聞いてあげられる場所、肯定してあげられる場所が家庭でありたい。

・日常の何気ない場面で心無い言葉を笑いながらノリや冗談で何度も言う人がいる。言葉は大事だ。その人の人格まで形成する。上を向いて唾を吐いたら自分の顔にかかるように、不快で嫌な言葉は相手だけでなく、自分にも返ってくる。笑えない命を脅かす言葉ではなく、幸せになる言葉を使い、人生を豊かなものにしてほしい。

・せめて学校の中では、子どもたちが自分で考え、自分の意見や思いを安心して伝え合える場を作りたい。「私OK、あなたOK」と思える風土がないと自由に意見交換ができないと思うので、「互敬」を浸透させたい。

